図6－2－44　萩原の農協スーパー

図6－2－43　安芸農協萩原支所
（昭和62年4月以降支店）

図6－2－46　安芸農協熊野購買支所
（萩原）

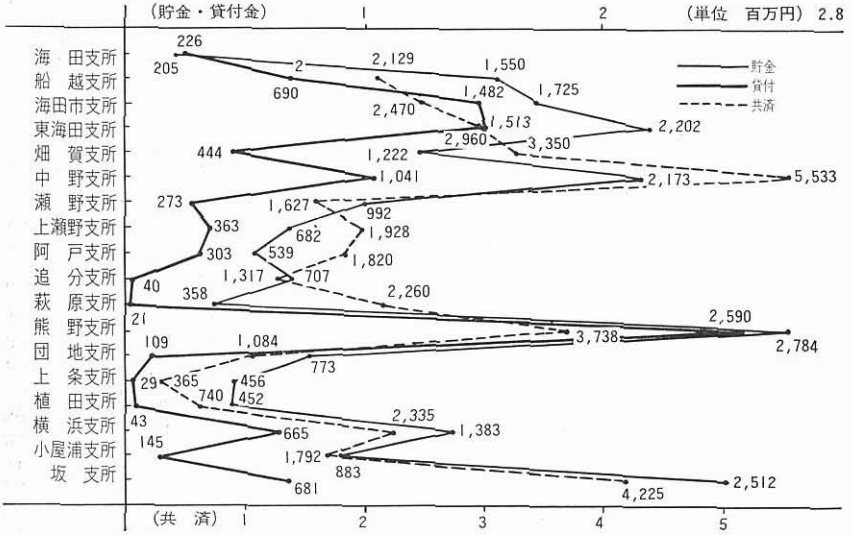
図6－2－45　現在の安芸農協熊野倉庫
（萩原）

図6－2－48　安芸農協2号倉庫（追分）

図6－2－47　安芸農協追分支所

図6－2－50　安芸農協団地店

図6－2－49　安芸農協団地支所



『業務報告書』より

図6－2－51　安芸農業協同組合の各支所別貯金・貸付・共済の推移
第1年度（昭50. 5. 1～51. 3.31）

表6—2—35　安芸農業協同組合（熊野町関係）の業績

支　所	組合員数（人）	1人当たり出資金額（万円）	貯金残高（百万円）	貸付金残高（百万円）	共済事業保有高（百万円）	購買事業供給高（百万円）
追　分	543	31,634	1,648 (707)	653 (40)	4,306 (1,317)	97.7 (79.7)
萩　原	1,085	34,680	1,342 (358)	512 (21)	5,598 (2,260)	196.3 (181.2)
熊　野	1,484	39,312	4,174 (2,784)	4,225 (2,590)	9,637 (3,738)	—
団　地	679	27,922	1,543 (773)	822 (109)	3,510 (1,084)	—

『事業報告書』より作成

注　第6年度（昭55. 4. 1～56. 3.31）。ただし、（　）内は第1年度（昭50. 5. 1～51. 3.31）

購買関係にも、町民の生活様式の変化の様子がうかがえて興味深い。

昭和四十年代後半の貯金と貸付金の推移が図6—2—42に示されている。この間、貯金は約一二億円から三四億円へ二・九倍増、貸付金は約五・六億円から二〇億円へ三・七倍と増加した。とくに貸付活動がこの時期さかんであったことがうかがえる。

昭和五十年（一九七五）安芸農業協同組合へ合併した年の旧熊野町農業協同組合関係の支所の他支所との比較が図6—2—51に示されている。熊野支所は貯金、貸付はいずれもその他の支所よりも傑出しており、共済においては中野支所および小屋浦支所に次いで第三位に位置づいている。

農業協同組合活動は、近年ますます「脱農業」化の傾向を強めているとともに、一般の金融機関に近づいている。熊野町内においてもこの傾向は認めうる。さらに、スーパー活動等を通じてますます町民の日常生活に深く広く浸透している。

信用組合

熊野町における代表的金融機関のもう一つは、信用組合である。その沿革は、熊野町に本店をもった土着の金融機関として、昭和二十七年（一九五二）八月五日開

図6—2—52　熊野町信用組合（昭和30年代前半ごろと思われる）

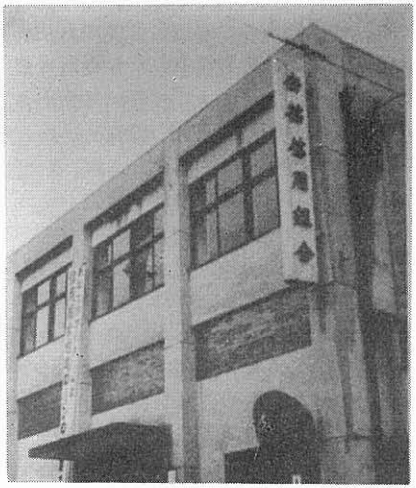


図6—2—53　安芸信用組合（昭和40年代前半ごろと思われる）

設の熊野信用組合でもって開始される。それ以降、昭和四十一年（一九六六）三月一日に安芸信用組合、さらに昭和四十七年四月一日付で広島県厚生信用組合および五日市信用組合と合併し、広島県中央信用組合熊野支店となった。昭和五十九年四月一日以降は、広島県信用組合と改められ今日にいたっている。

信用組合は、もともと中小企業金融専門機関であって、中小企業等協同組合法（昭和二十四年施行）に基づいて設立されている。この法律は、中小企業等が相互扶助の精神に立脚し、協同して事業を行う目的で信用協同組合や事業協同組合等を設立するばあいに適用される。特徴として、相互扶助、加入・脱退の自由、議決権の平等などの協同組合原則（＝ロッチデール原則）が導入され、独占禁止法の適用が除外されている点が、あげられる。

信用組合では、組合員が出資して組合員の預金の受入、組合員への貸出しを行う。信用組合の組合員は、中小企業の事業者のみに限定される必要はなく、組合の地区内に居住する者、勤労に従事する者であってもよい。組合の事業としては、資金貸付、手形割引、預金、定期預金の受入のほかに、内国為替取引、有価証券の払込の

受入、元利金・配当金の支払の取扱い、有価証券・貴金属等の保護預り等の金融業務ができることになっている。

図6—2—54　広島県中央信用組合熊野支店（昭和50年代中ごろ）

図6—2—55　広島県中央信用組合熊野支店（昭和40年代末から昭和50年代頭初ごろと思われる）

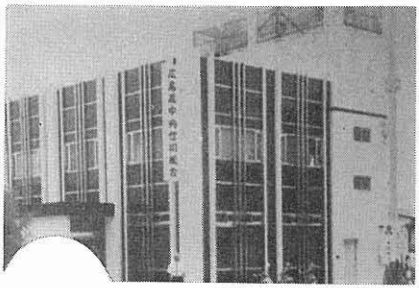


図6—2—56　同上西熊野支店（同上）

昭和五十四年現在、全国に四八九組合があった。

信用組合と類似の機関として信用金庫と称されるものがあるが、参考までに、その特徴点を述べておこう。信用金庫は、昭和二十六年（一九五一）制定の信用金庫法に基づいて設立される。やはり、中小企業金融機関の一つである。会員出資による地縁的協同組織であるが、預金・貸出業務が中心となる点で一般の銀行に類似しており、他方、与信の対象が原則として会員に限られている点で個有の特徴をもつ。沿革的には、市街地の信用組合から発展するものが多く、しだいに地縁的性格が名目化し、商業銀行的な色彩を強める傾向にある。

熊野町における信用組合の設立にいたる経緯はどうであったのか。戦後の毛筆業界の隆盛にともない地元における業者の金融活動は頻繁化していっ

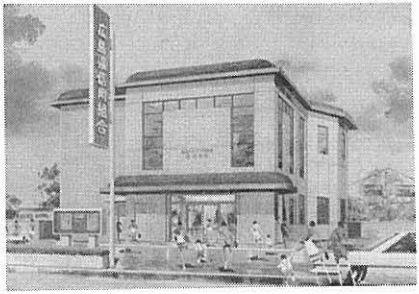


図6—2—58　広島県信用組合熊野支店新館　パンフレットより

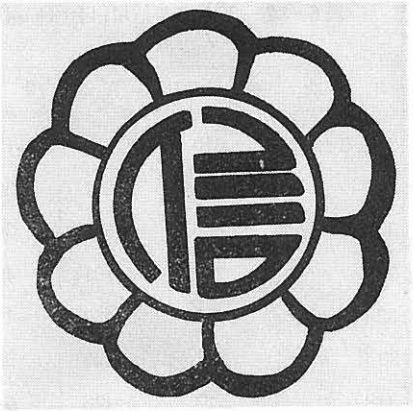


図6—2—57　安芸信用組合のマーク

図6—2—59　広島県信用組合出来庭出張所

た。従来の業界向け金融機関は川尻信用組合であったため、地理上の不便も加わって、地元に信用組合設立の要望が高まった。政府の中小企業対策や県の特別融資制度にも呼応する形で、神鳥栄・尺田公・中本次夫・山吹周道・佐々木久祐・高本正の六名が発起人となって、昭和二十七年ごろから活発な設立運動を行なった。約二か月の間に、組合加入賛同者五〇八名、出資金三〇四万三〇〇〇円が集められ、同年七月二十三日に、地元西光寺で創立総会が開催された。組合長に伊藤実雄、専務理事に世良英雄、常務理事に馬上次内・神鳥栄ほか八名、監事五名が選出された。同年七月三十日に、正式に設立認可、同八月五日から業務が開始された。組合員の主力は、地域の産業の特性を反映して製筆業者であり、まさに地域に密着した金融機関としてのスタートであった。

その後の信用組合の発展は、筆事業のその後の隆盛ともあいまって、順当な推移をたどっている。昭和三十一年五月には、その営業地域を隣村の昭和

表6－2－36　安芸信用組合（旧組合名）の業容の推移（業績等の推移）

（千円）

年　次	組合員数	出資金	預　金	貸　金	店舗数	常勤役職員数
28年3月末	610	3,438	12,227	6,663	1	6
29年　〃	685	4,201	30,105	20,504	1	8
30年　〃	696	4,596	30,727	24,287	1	9
31年　〃	704	4,791	43,523	24,834	1	9
32年　〃	720	5,159	49,145	33,525	1	9
33年　〃	731	5,347	54,619	42,894	1	10
34年　〃	734	5,428	64,646	41,242	1	11
35年　〃	757	5,646	65,246	41,780	1	11
36年　〃	789	5,855	77,010	47,548	1	13
37年　〃	840	8,177	111,204	67,697	1	12
38年　〃	876	9,202	151,219	87,459	1	14
39年　〃	917	9,441	180,761	102,218	1	15
40年　〃	970	10,030	244,021	117,558	1	17
41年　〃	1,042	11,234	321,341	174,917	2	22
42年　〃	1,232	13,266	448,644	279,987	2	23
43年　〃	1,349	16,233	512,469	343,078	2	22
44年　〃	1,528	20,864	643,379	453,099	2	24
45年　〃	1,997	23,898	826,479	622,956	2	24
46年　〃	2,718	29,263	1,047,986	848,931	2	28
47年　〃	3,274	33,265	1,292,850	1,026,326	2	27

『広島県中央信用組合25年史』昭和55年より

図6－2－62　呉信用金庫熊野支店

図6－2－60　広島県信用組合熊野支店（新しい建物）

図6－2－61　広島銀行熊野支店

村や熊野跡村に拡張、昭和三十六年（一九六一）五月には、創立十周年をひかえて鉄筋コンクリート・ブロック二階建延七八坪の新館を建設、瀬野川支店開設と同時に、安芸信用組合に改称され、営業地域はさらに拡大された。昭和四十三年十月には、同右支店は新築移転された（ただし同じく瀬野川町中野内）。合併後

は、熊野町内でさらに店舗数が増加された。すなわち、西熊野支店（昭和四十八年六月）や出来庭出張所（昭和五十八年三月）が開設され、最近では熊野支店が新築移転（昭和六十年十一月）している。

安芸信用組合時代までの業績が、表6―2―36に示されている。ちなみに、昭和四十七年度についての熊野農業協同組合の業績との比較は次のとおり。組合員数二八五二人、預金二二億八〇〇〇万円、貸付金一二億七八〇〇万円であった。つまり、組合員数で信用組合、預金額および貸付金額で農協が、それぞれ上まわっていた。

図6―2―63　広島相互銀行熊野支店

昭和五十年代には、農業や信用組合以外の金融機関も相続いて町内へ支店を設立してきた。昭和五十三年の広島銀行熊野支店をはじめ、呉信用金庫や広島相互銀行等も最近進出をみている。

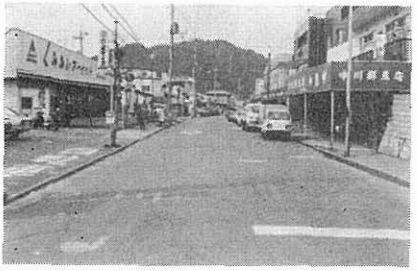


図6－2－23　商店街（県営熊野団地）

図6－2－22　商店街（中溝区）

図6－2－25　熊野町内のスーパー

図6－2－24　食料品店内の風景

図6－2－27　スーパーの買物風景『わたしたちの熊野町』より

図6－2－26　スーパーマーケットの駐車場『わたしたちの熊野町』より

また、構成員は商店街の振興を目標に、惰性や自店のつごうに流れることなく、共同意識、相互信頼を基調として、協力、協調、結束をはかり、公平に責任を分ちあえる共同体制づくりに取り組み、集団の中での繁栄を心がけられたい。

（広島県中小企業指導所『熊野町商店街診断報告書』昭和五十六年三月）

なお、町内地区別の買物動向は、表6—2—20に示されている。これらの動向をふまえた小売業の近代化、合理化と経営安定策が求められるところである。地元町内で購入される割合が高いものは、寝具・寝装品、シャツ・下着・その他の材料（以上、衣料品）、化粧品・小間物（身の回り品）、家庭用電気器具、自転車・子供乗物（耐久消費財）、スポーツ用品、時計・メガネ、書籍・文具（文化品）、医薬品、金物・日用雑貨（日用品）、青果・鮮魚・精肉、菓子・パン・飲料、その他の一般食品（食料品）など。町内のスーパー（サンユアーズ）や農協で購入される傾向の強いものは、これらのうち、シャツ・下着・その他の材料、食料品関係である。

町外とくに旧広島市内で購入される傾向の強いものには、紳士服・服地、婦人・子供服・服地（衣料品）、カバン・袋物（身の回り品）、楽器・レコード、カメラ・写真材料（文化品）、贈答品などである。流行や趣味、高級呉服等の比較的高額ものが多いようである。（以上、『熊

図6—2—28　最近オープンしたスーパー

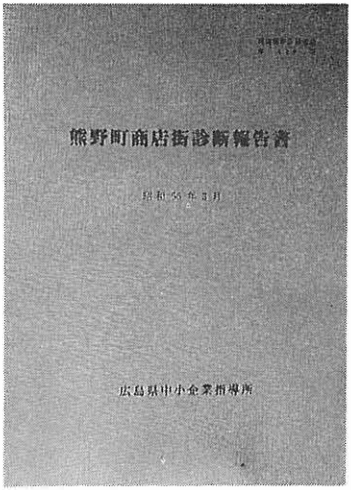


図6—2—29　『熊野町商店街診断報告書』（昭和56年3月）

表6－2－16　熊野町の小売業―業種別商店数―

	昭和31年	47	51	54
織物・衣料・身の回り品	17	25	27	31
飲食料品	58	69	75	84
自動車・自転車	4	10	14	15
家具・建具・什器	6	13	19	25
その他	17	39	55	56
計	102	156	190	211

商業統計

表6－2－17　熊野町の小売業―業種別従業者数―

	昭和31年	47	51	54
織物・衣料・身の回り品	34	67	57	63
飲食料品	120	194	284	344
自動車・自転車	11	24	36	47
家具・建具・什器	12	39	53	78
その他	40	159	217	220
計	217	483	647	752

商業統計

表6－2－18　熊野町の小売業―業種別年間販売額―　（万円）

	昭和31年	47	51	54
織物・衣料・身の回り品	217	27,246	45,699	68,371
飲食料品	693	71,956	300,059	411,746
自動車・自転車	30	7,942	13,962	24,661
家具・建具・什器	38	22,870	58,865	84,267
その他	957	42,622	149,646	164,681
計	1,937	172,636	566,231	753,726

商業統計

表6－2－19　熊野町の小売業―業種別売場面積―　（㎡）

	昭和47年	51	54
織物・衣料・身の回り品	2,081	1,363	1,402
飲食料品	2,646	4,730	4,770
自動車・自転車	711	919	123
家具・建具・什器	561	1,394	1,760
その他	2,163	1,685	2,560
計	8,162	10,092	10,615

商業統計

表6－2－20　地区別買物先

買物先／地区	地元							地元以外												計
								旧広島市				呉市				矢野町				
	中溝筋の商店	熊野内の商店団地	サンユアーズ（マルイシ）	農協スーパー	行商	その他の商店	計	百貨店	スーパー	一般商店	計	焼山地区スーパー	中心部のスーパー	一般商店	計	スーパー	一般商店	計	その他	
呉地	24.6	6.8	12.1	5.8	0.7	20.3	70.3	10.7	0.7	11.1	22.5	1.9	1.0	3.1	6.0				1.2	100.0
出来庭	33.3	4.1	5.9	0.8	0.7	13.0	57.8	16.6	2.9	11.9	31.4	0.7	2.3	6.3	9.3		0.7	0.7	0.8	100.0
中溝	45.1	4.3	3.0	2.4	1.2	6.5	62.5	16.8	0.9	12.3	30.0	2.1	1.8	1.4	5.3		0.5	0.5	1.7	100.0
萩原	29.2	2.7	5.1	11.3	1.7	16.3	66.3	13.0	0.4	9.0	22.4	0.9	2.2	3.4	6.5	0.1	0.3	0.4	4.4	100.0
城之堀	27.7	5.1	4.5	8.9	0.4	16.2	62.8	15.6	3.4	8.9	27.9	2.5	1.8	3.2	7.5		0.1	0.1	1.7	100.0
初神	15.1	4.3	11.3	4.3	0.9	19.8	55.7	9.4		15.1	24.5	1.4	4.3	3.3	9.0				10.8	100.0
新宮	22.9	1.8	12.2	4.8	3.1	15.5	60.3	11.9	7.4	13.5	32.8	1.8	0.3	1.0	3.1	0.5		0.5	3.3	100.0
川角	2.8	14.1	7.5	13.2	0.4	23.5	61.5	17.8	1.4	14.6	33.8	1.4	0.9	0.9	3.3				1.4	100.0
平谷	3.1	26.2	13.9	4.1	1.7	10.4	59.4	12.7	3.4	15.4	31.5	1.0	1.0	5.0	7.0		0.9	0.9	1.2	100.0
団地	1.7	26.8	3.7	9.6	0.9	8.2	50.9	16.5	2.3	15.8	34.6	1.5	1.9	4.8	8.2	0.1	0.3	0.4	0.5	100.0
計	19.2	12.2	6.3	7.1	1.1	12.8	59.4	14.8	2.2	12.8	29.8	1.5	1.8	3.7	7.0	0.1	0.4	0.5	3.3	100

『熊野町商店街診断告書』より

表6—2—21　業種別買物割合

(%)

業種＼買物先	熊野町 一般商店	熊野町 農協スーパーサンユアーズ	熊野町 行商	熊野町 計	旧広島市 百貨店	旧広島市 スーパー	旧広島市 一般商店	旧広島市 計	呉市 焼山地区スーパー	呉市 中心部のスーパー	呉市 一般商店	呉市 計	矢野町 スーパー	矢野町 一般商店	矢野町 計	その他	計
衣料品	26.5	15.8	2.5	44.8	19.8	3.3	14.0	37.1	4.0	2.3	5.4	11.7	0.2	0.9	1.1	5.3	100.0
身の回り品	39.2	5.4	2.7	47.3	21.4	4.4	13.4	39.2	2.6	3.0	2.9	8.5	—	0.4	0.4	4.6	100.0
耐久消費財	64.8	0.4	—	65.2	4.6	1.5	15.8	21.9	0.8	1.5	6.0	8.3	—	0.9	0.9	3.7	100.0
文化品	44.4	1.3	0.2	45.9	17.8	2.3	23.4	43.5	0.2	1.8	4.9	6.9	0.1	0.1	0.2	3.7	100.0
日用品	79.8	13.3	0.1	93.2	0.7	0.8	1.1	2.6	1.0	1.0	0.4	2.4	—	—	—	1.8	100.0
食料品	47.3	50.9	0.7	98.9	0.1	0.3	0.1	0.5	0.4	0.1	0.1	0.6	—	—	—	—	100.0
贈答品	21.2	8.3	—	29.5	60.6	—	3.6	64.2	—	3.3	1.7	5.0	—	—	—	1.3	100.0
計	44.9	13.4	1.1	59.4	14.8	2.2	12.8	29.8	1.5	1.8	3.7	7.0	0.1	0.4	0.5	3.3	100.0

前表と同じ

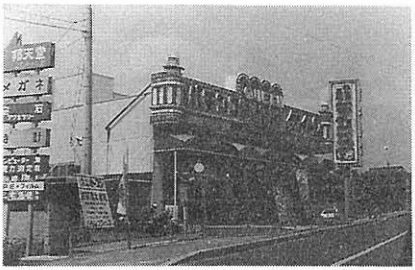


図6—2—31　最近進出した遊戯場（パチンコ）

図6—2—30　郊外型のレストラン

表6—2—22　田畑・山林の面積

区分	部落	反別	反収	実収高	出所
		町	石	石	
田	呉地	49.1	2.175	1,068	農林省食糧事務所調（昭和31年度）
	出来庭	51.2	2.182	1,117	
	中溝	32.8	2.220	728	
	萩原	85.9	2.211	1,899	
	城之堀	65.0	2.232	1,451	
	初神	38.6	2.190	845	
	新宮	70.8	2.160	1,529	
	川角	18.9	1.883	356	
	平谷	22.6	2.005	453	
	計	434.9	2.172	9,446	
畑	全面積　127町3畝13歩（4,973筆）				役場調（昭28.1.1現在）
山林	国有林　209町（中倉山、嵩山、堂所山、石嶽山、仏山、大桜山、初神山） 町有林　32町 私有林　約2,347町				同上（昭32.10.1現在）

『筆の町熊野誌』より

表6—2—23　農業経営の規模

規模	面積	戸数
	反	
1反未満	69	109
1反～3反	946	474
3反～6反	1,828	416
6反～10反	1,321	180
10反以上	198	17
合計	4,362	1,196
1戸当り	3反6畝	
町内総戸数	2,182戸	
同人口	9,812人	
内 生産者	1,196戸	6,187人
消費者	986戸	3,625人

農林省食糧事務所調（昭和30.10.20現在）

同上

野町商店街診断報告書』の調査を参照）。なお、近年遊戯場、レストランなどの進出もみられる。

農業

昭和三十年代ころまで、農業や山林の状況においては戦前戦後を通じてさほど大きな変化はなかったものと思われる。昭和三十一年度における田畑・山林の状況をみると、田四三四・九町、畑一二七・三町で耕地面積は五六二・二町（＝約五五七・六ヘクタール）、山林二五八八町（＝約二五六六・六ヘクタール）、以上合計面積が三一五〇・二町（＝約三一二四・二ヘクタール）となっている。

表6—2—24　昭和30年農産物生産高

種別		作付面積	収穫面積	推定反収	推定実収
		反	反	石	石
稲	水稲	4,621	4,621	2.744	12,680
	陸稲	17	17	1.334	23
	計	4,638	4,638	2.739	12,703
麦	小麦	276	276	1.707	471
	大麦	453	450	2.295	1,033
	裸麦	1,442	1,442	1.707	2,462
	計	2,171	2,168	5.709	3,966
				貫	貫
なたね		102	102	1,078	110
甘藷		716	716	443	317,188
馬鈴薯		189	189	296	55,890

昭和31年版広島農林水産統計年誌
同　前

表6—2—25　熊野町における農業経営

	農家人口	農業従事者	農家数	経営耕地面積	1農家当たり	
					農家人口	経営耕地面積
昭35	5,662		1,182	534ha	4.8人	0.45ha
40	5,182	3,534	1,123	531	4.6	0.47
45	4,686	3,123	1,084	480	4.3	0.44
50	4,037	2,799	937	387	4.3	0.41

農業センサス報告ほか

図6－2－32　実りの秋

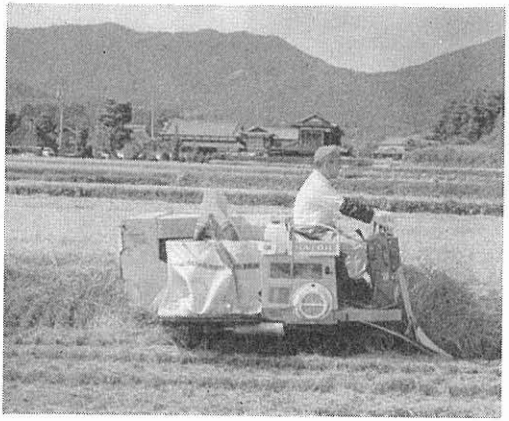


図6－2－33　農　作　業

昭和三十年（一九五五）の農業生産者戸数は一一九六戸、生産者人口六一八七人（一戸当たり平均＝五・二人）で、耕地面積四三六・二町、一戸当たりでは三反六畝（＝〇・三六ヘクタール）であった。同年の町内全戸数二一八二戸の五四・八％、全人口九八一二人の六三・一％が農業関係者でしめられていた。主な農産物は水稲、裸麦、甘藷などであり、大部分は自家用であった。

その後の全国的な高度経済成長につれて、熊野町においても農家人口や農家戸数は減少傾向を示し、昭和五十年（一九七五）では、農家人口四〇三七人、農業従事者二七九九人、農家数九三七戸（うち、八二九戸、八八・五パー

表6—2—26　熊野町における農業および畜産等の生産高

	昭35	40	45	50
農業粗生産額	160百万円	278	264	481
うち　米	95	164	161	313
（米の比重）	（59.4％）	（59.0）	（61.0）	（65.1）
野　菜	22	44	44	82
果　実	8	13	14	13
畜　産	22	45	45	39
牛飼養頭数	549頭	360	130	80
乳用牛	12	10	20	—
肉用牛	537	350	110	80
豚飼養頭数	2	20	350	250
採卵鶏飼養羽数	5千羽	6	2	11
鶏卵出荷量	t		12	109

広島県農林水産統計年報

セントは兼業主の第二種兼業）となり、耕地面積も三八七ヘクタールとなった。また、一農家当たりでみると、農家人口四・三人、耕地面積〇・四一ヘクタールとなっている。農家人口は、全町民の約二割程度にまで後退している。

農業生産額は、昭和五十年で、四億八一〇〇万円であったが、その六五・一％は米の生産である。野菜、果実、畜産等の生産も若干なされているが、ほとんど自家用生産の域にとどまっている。その他に、牛、豚、鶏等の飼養もわずかではあるが行われている。

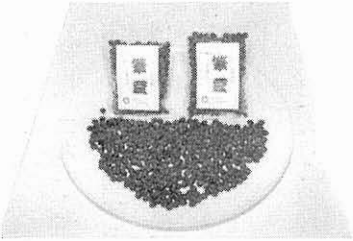


図6—2—34　広島ふるさと一品運動参加商品

近年の急激な都市化の進展は、優良農用地の減少、経営規模の零細化、兼業化による農業生産意欲の減退など、農業の後退を余儀なくさせています。しかし農業の振興は、単に農家の所得向上だけでなく、緑のオープンスペースとして貴重な役割を果たしており、農業生産基盤の整備を積極的に行うことにより農用地の保全を図るとともに農地の高度利用の促進と生産性の高い農業の振興に努めています。　町勢要覧より

表6—2—27　熊野町民の所得の推移

	昭37	42	47	52	52／37
町内純生産	5.4億円	15.1	50.8	124.5	23.1倍
町民所得の分配	10.5	27.1	109.0	263.6	25.1
町民個人所得	10.8	24.7	116.0	293.7	27.2
純生産(1人当たり)	5.8万円	15.7	28.7	55.1	9.5
所得の分配(1人当たり)	11.3	28.3	61.6	116.7	10.3
個人所得(1人当たり)	11.6	25.8	65.6	130.0	11.2

広島県統計課

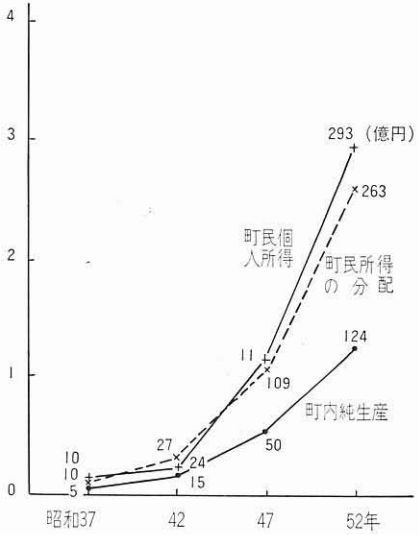


図6—2—35　熊野町民の所得
広島県統計課

所得

町民の所得は、町内の純生産、分配所得、個人所得から知ることができる。昭和五十二年(一九七七)についてみると、それぞれ一二四・五億円、二六三・六億円、二九三・七億円、町民一人当たりではそれぞれ五五・一万円、一一六・七万円、一三〇万円である。昭和三十七年(一九六二)からの伸び率は、個人所得、分配所得、町内純生産の順であった。町民一人当たりの個人所得が一三〇万円であるということは、一世帯当たり三・五人とすれば四五〇万円程度となる。

農業協同組合

熊野町における金融機関としては、農協すなわち農業協同組合がもっとも古い歴史をもっている。戦後の農協は、昭

和二十二年（一九四七）に施行となった農業協同組合法に基づいて設立されている。その基本的目的は、農民が彼らの経済的利益を図るための協同組合を組織することにおかれている。農産物の生産・販売、生産資材の購買、金融、技術経営指導などのほか、各種共同利用施設の設置、農業経営の受託などもその事業としている。その組織は、中央に全国組織として全国農業協同組合連合会があり、その下に、都道府県組織として販売、購買、信用、共済、開拓、畜産、養蚕、厚生等の各農協連合会、さらにその下に末端の組織として市町村レベルに単位農協が位置づく。いわゆる高度成長期以降（昭和三十六年の農業協同組合合併助成法による）、合併等によって大型化の傾向にある。また、最近では、スーパー・マーケット等の事業が多面化されつつある一方で、米価運動等を通じて有力な圧力団体としても機能し、また金融事業等も農業外へと拡散の傾向が認められる。

熊野町における農協の歴史は、戦前つまり昭和三年（一九二八）六月二十日に設立された熊野町信用組合（創業同年八月十日）にまで、さかのぼることができる。それ以降、熊野町信用販売利用組合（設立昭和十五年十二月一日）、熊野町農業会（設立昭和十九年）へと継承された。戦後になってからは、昭和二十二年の農協法に基づき、昭和二十三年五月五日に熊野町農業協同組合として設立（事業開始、同年八月十五日）をみた。そして、昭和五十年四月三十日付で安芸地域陸地部六農協との合併によって安芸農業協同組合の系列に参画し、今日にいたっている。

この間の主な組織的拡張や事業内容等の変化を記述すれば以下のようなものがある。戦前では、設立後六年を経て、事務所の移転が行われた（昭和九年七月二十三日、中溝の現在の位置）。全国的にはいわゆる経済の軍事化、統制の強まり、農村不況の波のおしよせる中で、熊野町信用組合は創業十周年をむかえた昭和十三年（一九三八）十月に購買事業と販売事業を開始した。つまり、購買、販売、利用の各事業を加えたいわゆる四種兼営形態に拡張充実をみたのである。それはまたとりもなおさず配給統制経済への対応でもあった。昭和十五年には萩原農業倉

表6－2－28　農業協同組合の戦前・戦後（単位　円）

名称	年度	組合長	組合員数	口数	払込出資	金融部		事業部		備考
						貯金高	貸付高	米麦買付	物品販売	
熊野町信用組合	昭3	神鳥林右衛門	452	618	12,360	40,491	17,677			1口20円、決算期12月31日（以下同）
	4	阿原　臣	504	668	11,826	71,808	54,781			
	6	〃	480	634	12,549	104,777	61,651			
	9	梶山幸三	525	678	13,298	208,190	93,072			
	12	〃	719	876	15,466	310,433	147,013			
熊野町信用販売利用組合	15	〃	1,377	2,256	29,492	715,548	200,134	?石	90,259	昭13改組改称
	16	伊藤実雄	1,438	2,314	32,268	932,640	168,358	3,516	134,496	
	18	〃	1,516	2,398	45,417	3,288,725	112,925	3,529	112,355	
熊野町農業会	19	〃	1,479	2,493	49,276	5,826,821	128,099	?	?	決算期3月31日に改正（以下同）
	20	益永信一	1,483	2,511	49,824	9,243,624	113,163	6,194,838円	2,275,516	
	21	遠山　厚	1,546	2,527	50,146	8,606,940	509,143	?	?	
熊野町農業協同組合	23	藤河玉三	1,355	1,369	547,600	15,155,273	4,163,671	?	5,150,549	出資1口400円
	25	〃	1,413	4,132	1,652,800	26,254,908	9,347,128	4,258石	12,779,253	
	26	久保田正記	1,451	4,938	1,975,200	39,298,309	14,609,769	4,289	18,787,759	
	28	〃	1,525	7,790	3,116,000	70,133,714	32,026,146	2,866	30,469,485	
	30	南崎高市	1,629	10,298	4,119,200	96,875,782	43,782,542	3,707	32,635,670	
	31	〃	1,646	25,936	10,374,400	104,918,921	53,703,376	2,687	32,910,601	

備考　年度は各種区分観察に便利なように適宜選んだ。

片川進・登里良太郎編『筆の町熊野誌』より、但し一部訂正・加筆

表6－2－29　昭和31年度の農業協同組合活動の指数
（昭和3年度＝100）

項目	指数
組合員数	36
口数	42
払込出資金	839
貯金高	2,591
物品販売	576

備考　ただし、物品販売は昭和14年度を100とする昭和31年度の指数である。
前表と同じ

表6－2－30　農業協同組合の平均表（円）

年度	1世帯当り 組合員	1世帯当り 貯金高	1世帯当り 貸付高	1人当り 貯金高	1人当り 貸付高
昭27	69.5%	25,727	12,734	5,707	2,825
28	72.6	33,397	15,251	7,362	3,362
29	74.3	36,107	19,121	7,912	4,190
30	76.8	45,696	20,652	10,019	4,528
31	76.8	48,959	25,056	10,804	5,530

備考　世帯及人口は住民登録による各年10月1日の数字を基礎とした。
前表と同じ

庫が建築をみ、やがて翌十六年には追分倉庫と出来倉庫の購入もなされている。熊野町農業会の設立（昭和十九年）は、昭和十八年の農業団体法の設立に基づく全国的統制の現われである。この法律によって、農業における供出・配給・生産統制・労働力統制など、戦時の体制への動員がはかられたのである。これは戦後の農協法の制定まで続いた。したがって熊野町農業会も昭和二十三年八月十五日をもって解散されることになる。

農業組合活動の活発化

戦後になってからの施設の拡張等は以下のようなものがあげられる。昭和二十五年（一九五〇）五月徳坊子、出来西倉庫が萩原へ移転、昭和二十七年十一月三十日に追分支所竣工、鉄筋造りの金融部事務所の落成、同二十八年六月四日事業部中溝支所の開設、同三十年十二月一日鉄

図6－2－37　昭和44年当時の熊野町農協会館　落成記念のパンフレットより

図6－2－36　熊野町農業協同組合本部（昭和30年代中ごろ）

図6－2－39　右の内部

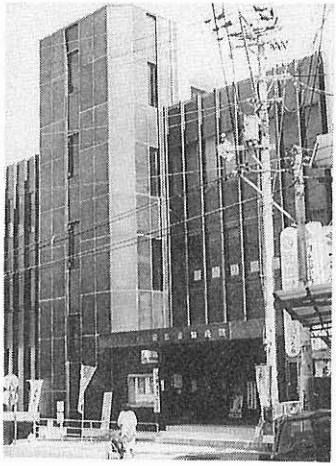


図6－2－38　現在の熊野町農協会館

図6—2—41　熊野町農業協同組合追分支所（昭和30年代中ごろ）

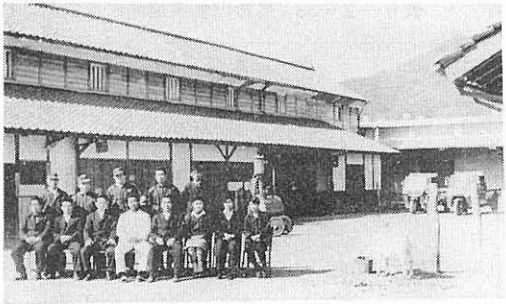


図6—2—40　熊野町農業協同組合（昭和30年代中ごろ）

表6—2—31　熊野町農業協同組合

年　度	組合員数（人）	出資金（円）	貯金高（円）	貸付金（円）	購買売上高(円)
昭和 3	452	12,360	40,491	17,677	—
15	1,377	29,492	715,548	200,134	90,259
23	1,355	547,600	15,155,273	4,163,671	5,150,549
31	1,646	10,374,400	104,918,921	53,703,376	32,910,601
45	2,640	24,886,000	1,876,009,836	1,100,661,498	
49	2,852	39,558,000	4,668（百万円）	3,063（百万円）	5,872（百万円）

49年度は安芸農協合併時の旧熊野町農協分の合計（含熊野跡支所）、但し組合員数と出資金は48年度分

資料：昭和31年度までは片川進・登里良太郎編『筆の町熊野誌』より　45年度は「熊野町農協、49年度は安芸農協の「事業報告書」による

表6—2—32　熊野町農業協同組合の指数（31年＝100）

年　度（昭和）	組合員数	出資金(円)	貯金高(円)	貸付金(円)	購買売上高(円)
23	82	53	14	8	16
31	100	100	100	100	100
45	160	240	1,788	2,050	
49	173	381	4,450	5,704	17,848

前表より算出

表6—2—33　熊野町農業協同組合の組合員数・出資金（昭和46年度）

区分	正組合員 人	準組合員 人	組合員数 Ⓐ 人	出資金額 Ⓑ 円	一人当り出資額 Ⓑ/Ⓐ 円	配当金（年7分）円	予約貯金出資金 円	特別配当金（個人持分）年二・五分
呉地	191	4	195	1,643,600	8,428	106,948	70,520	
出来庭	306	20	326	3,625,200	11,120	231,738	137,066	
中溝	503	29	532	6,587,600	12,382	439,380	269,113	
萩原	381	18	399	3,895,200	9,762	252,670	152,910	
城之堀	301	8	309	3,008,800	9,737	191,248	105,629	
初神	109	7	116	966,400	8,331	66,478	42,862	
新宮	206	4	210	1,834,800	8,737	118,036	73,435	
川角	69	5	74	667,600	9,021	42,764	24,128	
平谷	79	6	85	943,600	11,101	60,382	33,919	
団地	—	146	146	683,600	4,682	37,892	21,221	
熊野跡	294	34	328	4,801,600	14,639	322,216	564,594	
合計	2,439	281	2,720	28,658,000	10,536	1,869,752	1,495,397	

『事業報告書』より

筋コンクリート二階建の萩原農業倉庫の落成をみた。

昭和二十七年三月には、熊野町農協が貯蓄優秀組合として大蔵大臣や日銀総裁から表彰され、多彩な祝賀行事が行われた。戦前から戦後にかけての業績の推移は表6—2—31・32にみられるとおりであった。組合員数四五二人で出発（昭和三年）は、同十五年度は一三七七人、戦前最高の一五一六人（昭和十八年度）が記録されている。

戦後の復興期は千数百人で推移していた組合員数は高度成長期と熊野団地の完成による町人口の急増を反映して、昭和四十年代には一挙に倍増した。戦後における熊野町農業協同組合の業績の推移は表6—2—33・34に示されている。購買売上高、貸付金、貯金高、出資金、組合員数の順で伸び率が認められる。人口の急増は、購買や貸付にもっとも端的に反映されているとみてよいのではあるまいか。

昭和四十六年度における熊野町農業協同組合の地区別構成と業績内容を表6—2—35にかかげる。会員数

表6—2—34　熊野町農業協同組合（昭和46年度）

(1) 貯　　金

区　　分	定　期	積　立	普　通	当　座	合　計
年　　利%	6.1　5.85	4.0	2.25	0	(4.2)
年間残高(百万円)	1,173	144	700	41	2,058
構　成　比%	57	7	34	2	(100)

(2) 貸 付 金

区　　分	営　農	住　宅	保　証	担　保	其の他	合　計
平均残高(百万円)	9	323	96	550	217	1,195
構　成　比%	1	27	8	46	18	100

(3)購　　買（支所別）

（百万円）

区分	店舗	食品	生活用品	燃料	肥料	農薬	生産材	農機具	飼料	建材	電器	自動車	合　計
萩原	220	20	11	136	88	51	79	138	50	184	63	275	1,079
追分	0	68	54	38	36	25	33	96	8	29	33	53	473
跡	166	118	68	40	36	27	30	113	13	36	28	33	703
合計	387	206	134	215	160	103	140	347	71	243	125	101	2,255

前表と同じ

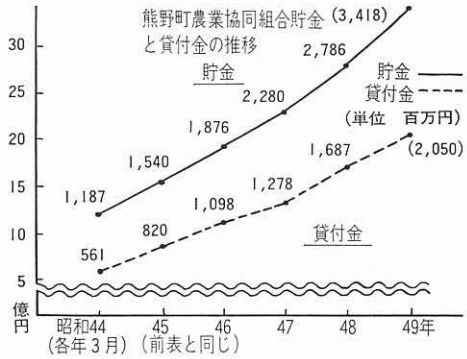


図6—2—42　熊野町農業協同組合　貯金と貸付金の推移　前表と同じ

は、中溝、萩原、出来庭、城之堀地区に集中している。準組合員はその約五割をこえる数で団地地区に集中しているところに、昭和四十年代の特徴が示されているといってよいであろう。貯金は定期が約六割、普通が三割強の割合を占めている。貸付金は担保が五割弱、住宅が三割弱で、営農関係がわずか一%にしかたっていない。また